

編集後記

◇ 7月9～10日、私用で山形県酒田市に出かける。日本海沿いに松の防風林が続き、その間の砂地に露地ネットメロンのほか、サツマイモの畑も広がっていた。

かつて田中宮門が江戸藩邸から庄内に下る途中、越後（新潟）で甘藷栽培を目にして種いもを分けてもらい西田川郡袖浦村（現在の酒田市浜中）にサツマイモを伝えたのは、160年前の1856（安政3）年のことだ。当時、甘藷栽培は北上して酒田市にも根付き、今では地域特産物の一つになっている。

◇ サツマイモを新聞紙で包み、段ボール箱に入れて常温保存の可能期間は、翌年の春先から初夏までと言われてきた。私の場合、昨年までは「ベニアズマ」で4月上旬まで保存可能であった。今年是一部で腐敗があったものの、大きいサツマイモは7月上旬まで保存できた。

一方、今年のジャガイモの収穫は、6月28日に終了した。「きたかむい」は、「キタアカリ」、「とうや」に比べて生育が旺盛で大粒が多く、収量も約30%程度多かった。

◇ 6月25日、茨城県茨城町の全農茨城県本部・農機総合センターで、茨城県かんしょ生産者連絡協議会主催の研修会が開催され、「焼きいもの需給動向と課題」の演題で講演を行った。80名の参加者があり、焼きいもに対する関心の高さを実感した。

◇ 本誌No.125の特集テーマとして、「いもけんぴの歴史と生産・消費動向」を企画した。いもけんぴについては、消費者は言うに及ばず、いも類関係者でもその生産・流通の実態を把握している者は少ない。それゆえ、いもけんぴの特集を組みその実態に近づきたいと考えた。しかし、資料・情報が乏しく、企画編集では悪戦苦闘した。

結果的には、いもけんぴ大手の澁谷食品(株)のほか、関係者のご協力いただき、特集を組むことができた。今後とも、いもけんぴに関する情報の収集に努めて参りたい。読者でいもけんぴに関する資料・知見をお持ちの方は、是非いも類振興会に一報いただきたい。

◇ 野國總管まつり実行委員会主催による甘藷伝来410年記念事業として、「野國總管甘藷功労賞授与式典及び甘藷フォーラム」が、平成27年11月15日に沖縄県の嘉手納町文化センターで開催される。野國總管の遺徳を偲び、甘藷フォーラムへの参加を期待したい。

（狩谷 昭男）

いも類振興情報 第125号

2015（平成27）年10月15日発行

定価 1部 500円

年間購読料（季刊） 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社